令和3年度　県立家島高等学校　学校評価

分野（Ⅰ 学校全体・組織・運営　Ⅱ 学習指導　Ⅲ 生徒指導　Ⅳ 進路指導　Ⅴ 地域連携・PTA）
評価（A よくできた　B できた　C あまりできなかった　D できなかった）

分掌	分野	評価項目・達成目標	成果指標（具体的な達成目標）	振り返り・課題	改善策（前期）	成果	評価	課題・改善策等	学校関係者評価
総務	Ⅰ	年間行事を精選し、地域の教育資源の有効活用を図り、特色ある学校づくりに努める。	行事検討委員会と連携し、学校行事をより充実したものにし、生徒の満足度を高める。	生徒の学校評価から、2.9と昨年度と比べて低くなっているが、内訳として3年生からの評価が低く、コロナ以前の学校行事と比較すると行事自体が少なくなっているためだと考えられる。1，2年生は満足している様子である。	コロナ禍でも実施できる形を考え、できる限りの行事を行いたい。	予定していた行事が中止や延期となっている。	B	各行事でコロナ禍でも実施できる代案を考えておく。	広報活動、HPについては高い評価を得たが、学校評議員の方には地域に根差した広報活動を行ってほしいと助言を得た。 地元の家島中学の入学希望者が近年かなり少なくなってきていて、新年度はゼロになる見込みが高いため、地域としても協力を惜しまないが、学校としても島外の中学校に対して働きかけるような活動をするような助言があった。 本校教員に対しては、エンパワーメント（学び直し）の授業を行っていることには高い評価を得たため、このような特色のある活動に関しては継続してほしい。付け加え、難関私立大学への合格者が出たことに関しては一人ひとりにあった進路の実現を達成し、高い評価を得た。 部活動ではウエイトリフティングで全国大会出場を決め、特色のある部活動に関しても一定の評価を得ることができた。
	Ⅰ，Ⅴ	防災避難訓練等を実施し、生命を守るため主体的に行動する力を身に付け、地域に貢献できる人間の育成を目指す。	防災避難訓練や生命を守るため主体的に行動する力を身に付けさせ、地域に貢献できる人間の育成を目指する。	先日の避難訓練では緊急放送終了から4分以内に避難が完了した。そういった点では主体的に行動していると言える。2学期より合同避難訓練等が行われる。	避難訓練に関しては、教員不在時の避難訓練など、生徒自身で行動できるかを知る形態をとる必要がある。	避難訓練時に何をすればよいのかを合同避難訓練での活動を通して学ぶことができた。	A	毎年同じ形ではなく、様々な事態に備えた避難訓練を行う。	
	Ⅴ	地域の関係機関をはじめ、PTA・同窓会・地域連携支援協議会等と協働し、魅力ある学校づくりを推進する。	PTAや地域と連携するとともに、地域行事への生徒・教職員・保護者の積極的参加を促す。	コロナ禍のため。行事等の保護者並びに、PTAの参加はされていない。	後期に幼小中高地域合同防災避難訓練、地域交通安全教室を実施予定。	コロナ禍であるため縮小して、小・中・高校合同避難訓練となった。自衛隊・消防署の方と協力して様々な活動を行うことができた。	A	家島在住の小中学生に合った防災に関する活動を地元の消防署の方と相談して行う。	
教務	Ⅰ	生徒の実情や希望、また本校の特色が全面に出るような教育課程を設定する。	教務部で定期的に協議を行う。また、必要に応じて教育課程委員会を設ける。	令和4年度入学生の教育課程は本校の実態に即した内容になった。	随時見直しをしていく。	本校でこれまで蓄積された経験を活かすことができた。	A	教育課程員会を現在よりも開催回数を増やしてみる。	
	Ⅱ	進学、就職それぞれの進路目標に応じた「確かな学力」を身につけさせるために、類型ごとに授業内容を見直す。	学期ごとの成績不振科目保有者数ゼロを目指す。	4月当初より、横ばい或いは上昇傾向にある。	教科担当や担任が連携してきめ細やかな対応を確立していく。	一部の生徒で達成できていない。また、特定の生徒が該当している。	C	教科担当や担任が連携してきめ細やかな対応を確立していく。	
	Ⅱ，Ⅲ	学年・生徒指導部と連携しながら、生活習慣の見直しを図り、遅刻・早退・欠席を減少させる。	遅刻・早退・欠席の数が常に減少傾向になるようにする。		健康管理・時間管理は社会性の一部という認識を持たせる。	依然として、遅刻が多い生徒が残っている。	B	進路指導などを通して、健康管理・時間管理の重要性を説いていく。	
	Ⅱ，Ⅳ	進路指導部と連携しながら、長期休業中の補習および模擬試験を計画的に実施する。	大学進学希望者は、原則参加するように促す。	長期休業中の補習は学年単位で実施している。模試も同様である。	今後も長期休業中の補習は学年単位で個々の生徒の進路希望に応じた内容を展開する。	個々の生徒に応じた補習を展開することができた。	A	小規模校のよさを活かし、生徒一人ひとりに応じた教育活動を展開していく。	
生徒指導	Ⅰ	いじめ認知を強化し、生活環境の正常化を図る。	年間11回の「生活実態調査」を実施するとともに、担任と協力をして生活環境や人間関係を整える。また、教員間で生徒情報を積極的に共有する。	1学期は4月から7月で4回実施済み。各学年担任との情報共有は行えている。「心のサポート委員会」「生活実態調査結果共有会議」にて全教員と情報共有はできているものの教員からの生徒情報等の発言が少ないことが課題。	実施場所、手段の変更。会議における教員の発言を促す声掛けを行う。	生徒への調査、会議の実施は計画通り実施できた。しかし、教員の発言は少なかった。	C	調査方法や会議実施における工夫。教員の発言を増やすための工夫を検討する。	
	Ⅰ，Ⅲ	交通安全に係る規範意識を高める指導をする。	年間1回以上の「交通安全講話」を実施する。	1学期は未実施。今年度に実施予定。	実施内容の充実を図る。またスケアードストレイト（スタントマンが受講者の目の前で交通事故を再現）の実施や歩きながらのスマートフォン操作の問題点を指導したい。	今年度は感染症拡大防止のため飾磨警察署と協力して、交通安全の講演を中心に実施。	B	警察署員が中心となっておこなうものが多かった。生徒会が企画、運営する場面を設けたい。	
	Ⅰ，Ⅳ	「挨拶、返事、報告、連絡、相談、お礼、お詫び」を実践する。	校内掲示物と指導頻度を増やす取り組みを行い、習慣化させることを目指す。生徒の委員会活動での掲示物作成。	積極的に掲示物を作成、掲示をおこなった委員会もあるが全体的にできていない。	後期の新生徒会、委員会活動にて教員から積極的に声掛けを行う。	生徒会の自主的な行事運営ができた。	B	校内掲示物の作成	
	Ⅰ，Ⅲ	地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	募金活動と地域清掃を合わせて5回以上実施し、「奉仕意欲」「自己有用感」「自尊感情」「ふるさと意識」等の高揚を図り、地域を担うリーダーシップを養成する。	地域清掃（3年生）を実施済み。しかしながら生徒会活動（募金、地域清掃、ボランティア等）を実施できなかった。	1学期に実施できなかった生徒会による地域ボランティア、全生徒による地域清掃の回数を増やす。	地域清掃を計画通り実施済。夏に地域ボランティアへの参加。	C	地域のボランティア活動に参加	
進路指導	Ⅰ，Ⅳ	3学年全員の希望進路を実現する。	進路未決定者を0人にする。	3学年と連携し、全員の進路希望の確認を行い、年度末での進路未決定者を0人にするよう取り組んでいる。	1学期終了時点において、進路選択に悩んでいる生徒がいるのでそのような生徒をなくしたい。	個別の進路面談やハローワーク主催の合同企業説明会への参加など、進路選択の指導を行ったが3学期開始時点で5人の進路未決定者が残っている。	C	進路未決定者に対しては、生徒本人の希望を踏まえたうえで、進路指導部と3学年だけでなく、家庭とも連携をしながら方向性を考えていく。	
	Ⅰ，Ⅳ	模擬試験を活用して生徒の学習レベルを掌握し、生徒一人ひとりに合った進路指導の充実を図る。	進路行事は年間3回以上、進路面談は定期的に実施し、2年生2学期頃には進路希望を決定できるようにする。	1学期末の進路説明会並びに進路ガイダンス、夏季休業中のインターンシップ、2学期末の進路フェスタなどの進路行事を実施。各学年での進路面談を行い、進路希望の決定を促している。	入学次より積極的に進路に向き合わせるよう計画的に進路指導を行い、2年生2学期頃には進路希望を全員の生徒に決定させたい。	左記の様々な進路行事や進路LHR、進路希望調査などを通じ、生徒の進路に対する意識を高めた。	B	明確な進路希望を持てていない生徒に対しての個別の指導を行う。	
	Ⅰ，Ⅳ	生徒が主体的に進路選択できるようになるための、3年間を見通した進路指導計画を確立して実行する。	生徒自ら主体的に進路学習ができるよう、「進路指導規程」及び「進路の手引き」を作成する。	「進路指導規程」及び「進路の手引き」を用いて進路指導を進めている。また、家島高校キャリアノートを活用し、一人ひとりの進路学習をサポートしている。	来年度の入学生から、中学校よりキャリアノートの引継ぎを行い本校の進路指導に活用していきたい。	進路指導計画に沿った指導を進めることが出来た。	A	中学校より引継ぎのキャリアノートの効果的な活用法を検討していきたい。	
保健	Ⅰ	自身の健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることができる心と体を育む。	個々に応じた指導や学年・他部署・専門職との連携を密にし、毎回同様の理由での来室や頻回来室、継続的な来室を減少させる。	1学期を通して、同様の理由で来室する生徒は多かった。保健室来室記録カードを活用し、個別の保健指導を行ったが、減少には繋がらなかった。	症状や必要性に応じて、保護者や担任、キャンパスカウンセラーと連携を図り、多方面からアプローチをしていく。（病院の受診も促していく。）	同様の理由での来室や頻回来室者に対し、原因について考える機会を設け、健康の保持増進に向けた保健指導を行えた。	B	健康問題の早期発見・早期治療の重要性について保健指導し、早期の医療機関受診を促していく。	
	Ⅰ	学校安全に対する意識を高め、学校事故防止と緊急時対応の充実を図る。	年度初めの救急体制の周知徹底と、職員・生徒対象の救急講習会の実施、学期ごとに安全点検を行い、安全管理・安全教育につなげる。	年度初めの救急体制に加え、7月に1年生・教職員を対象に心肺蘇生法・AED講習会を実施した。また、今年度より、生徒に対し保険証原本の常時携帯及び保険証のコピーの提出を徹底し、一層の緊急時対応の充実を図った。	8月末には、教職員向けにエピペン・ポイズンリムーバー研修会を実施予定。	生徒・教職員向けに心肺蘇生法・AED講習会、教職員向けにエピペン・ポイズンリムーバー研修会を実施することができた。また生徒の保険証原本の常時携帯・保険証のコピーの提出を徹底し、一層の緊急時の救急体制の充実を図ることができた。	A	エピペン・ポイズンリムーバー研修会は年度初めに行えるよう調整する。	
	Ⅰ	学習面や対人関係などに困難を抱え、支援を必要としている生徒がよりよい学校生活を送ることができるよう、支援体制の充実を図る。	月に1回の心のサポート委員会やケース会議で情報共有・実態把握・対応の検討・実施・評価を行い、個々のニーズに合わせた支援を行う。	月に1回実施している心のサポート委員会では、情報共有・実態把握・対応の検討までは行えているが、その後の実施・評価の振り返りが十分に行えてないなのが現状である。	支援を必要とする生徒が多いため、優先順位を決め、進めていく必要がある。	心のサポート委員会では、特に支援を必要としている生徒について管理職、学年団、キャンパスカウンセラーと情報共有・実態把握・必要な支援について考えることができた。	C	今後は、必要な支援の実施・評価、保護者との連携にも重点を置き、卒業後を見据えた支援に繋げていく。	
図書（教務部）	Ⅰ	図書委員長を中心に、図書委員全員で図書室を主体的に運営する。	図書の貸し出しや図書便り(BOOKMARK)の各学期1回の発行を図書委員が行う。	当番の都合が悪い時間は生徒どうしで当番を交代するなどし、当番が不在のときは少なく、図書の貸し出しなど問題なく行えている。	さらに図書の貸し出し等が増加するように図書委員全員で協力する。	図書委員の活動は問題なく、図書だよりの発行も予定通りである。	B	活動が図書の貸し出しにつながっていないことが課題である。さまざまな媒体での読書も検討する必要がある。	
	Ⅰ	図書室の利用を活性化する。	図書室の利用生徒数を昨年度より増やし、年間貸出総冊数が100冊以上になるようにする。	図書室利用者は少なくないが、同じ生徒の利用が目立つ。本を借りてまで読もうとしないので貸出数も少ない。	生徒のニーズに応える必要がある。	利用者は毎日5人以上いて、利用者は多い。	B	昼休みは憩いの場、放課後は勉強と利用目的がはっきりしてるが、図書の貸し出しに至っていない。紙の媒体以外での読書も検討する必要がある。	
	Ⅰ	図書委員全員で書架の整理を行い、利用しやすい図書室にする。	書架の整理を完了させる。加えて読書以外にも活用できる環境を整える。（放課後のクラブ活動のミーティングなど。）	ライトノベルなど生徒が興味を持ちそうな本を目立つところに置き、図書室の利用が増えた。	さらに図書の貸し出しが増加するように努力する。	書架の整理は順調で読書以外での利用は機能している。	A	受験勉強をしている先輩の姿は後輩に良い影響を与えているが、読書という点では機能していない。	
人権	Ⅰ	生徒の人権尊重の意識を高める。	人権LHRを各学年で年間を通じて2回以上実施する。	1学期は講演会を実施したので、2学期以降は人権に関するLHRを各学年ごとに実施していきたい。	講演会後アンケートのアンケートの実施で意識を高める。	2学期の終わりに全学年で2回目の人権HRを実施できた。	A	全学年統一の人権LHRだけでなく、学年の実情に合わせたLHRを計画、実施していきたい。	
	Ⅰ	生徒の秘密や人権に配慮した教育相談を実施する。	学年は生徒と学期に1回以上面談し、学校全体ではキャンパスカウンセラーと連携した教育相談を月に1回行う。	生徒の人権に配慮した教育相談の実施を月に1回以上おこない、学校全体でもその情報を共有するようにし、充分に実施することができた。	さらに情報の共有を図る。	1学期同様に、2学期も学校全体で生徒の情報など充分に共有することができた。	A	さらに情報共有を図る。	
	Ⅰ	校内研修会を実施することで教職員の人権意識を高める。	校内で職員対象の研修会を1回以上実施する。	性的マイノリティに関する講演会を教職員の研修を兼ねて実施した。生徒の関心も高く、人権意識を高めることができた。	次年度以降も引き続き新たな講演会等を検討する。	1学期に研修を兼ねた講演会をおこなった。	A	次年度以降も引き続き新たな講演会等を検討する。	
1学年	Ⅰ，Ⅲ	自分の居場所があって安心できるクラス、皆で協力し、支え合って成長できるクラスをつくる。	クラスの中で、お互いに心を許し、理解し合い、信頼できる友人をつくる。クラス内の課題を、皆が他人事ではなく「自分事」として捉え、解決に向けて主体的に考え行動できるようになる。	他学年より比較的仲が良く、月に1回の生活実態調査においても学校生活が楽しいと回答する生徒が多い。しかしながら、3件ほど人間関係によるトラブルが発生した。他者理解が十分でないことが課題である。	クラス内において人権の観点から他者を理解すること、人の価値観について学ぶ時間を設ける。	クラス内での人間関係によるトラブルが数件あった。	B	他者理解を含む人権学習を取り入れていきたい。	
	Ⅰ，Ⅲ	クラス全員と仲良くしてあいさつを毎日する！あたりまえをあたりまえに！！	男女分け隔てなく、クラスメイト全員と話せるようになる。あいさつを元気よく自発的に行う。基本的な学校生活を確立する。	あいさつは他学年よりでき、積極的にできる生徒も多い。しかし、生徒自らが決めた「あたりまえのことをあたりまえに」という目標を立てた中で課題の提出率が課題である。	課題を出していない生徒への指導、期限を守ることの重要性について指導を徹底する。	課題や書類の提出期限を守ることができない生徒が多い。	C	生徒への声掛けの工夫や家庭との連携を密にする。	
	Ⅰ，Ⅳ	興味があること・将来やりたいことを明確にし、卒業後の進路をイメージし、その実現に向けた計画を立てる。	自分についての理解を深める。（特性・能力・性格／興味／周囲から見た自分／等）将来就きたい職業の候補を挙げる。それを実現するまでの進路のイメージを持つ。その進路を踏まえて、2年進級時の類型選択を行う。	「キャリアノート」を活用して春から5時間程度時間を設け進路決定に向けて自分を知ること、仕事への適性、職業の種類など学習させた。まだ、1年生ではあるが自分の興味があること、好きなこと、将来の夢を自覚させることができた。	キャリアノートだけでなくICTを活用した活動も実践していきたい。	校内の進路学習だけでなく、職業体験や大学見学をおこなったが新希望調査にて希望進路の未定者が多い。	B	外部講師や外部での見学等、体験に力を入れた学習を取り入れていきたい。	
	Ⅱ	学ぶ楽しさを知り、学ぶ習慣を身につける。授業に集中して取り組める環境を、クラス全体で確立する。	「朝の学習活動」を通じて、思考力・判断力・表現力を育み、自分の考えや意見を積極的に発信できるようにする。集中して授業に取り組める環境をつくる。	生徒の現状の課題としては、自分が思っていること、考えていることを文字や言葉として表すことができる力が乏しいことである。朝の学習活動にて新聞を活用して記事の内容について自分が思ったこと感じたことを自由に書かせている。1学期の後半では文章の量が少しずつ増え、力はついている。	文章量が多くなった生徒もいる反面文章量、内容ともに乏しい生徒もいる。全員が書きやすいよう、記事内容を精査していく必要がある。	全体としては各文章量が増えた。一部生徒では変化がない。	B	次学年でも新聞や本など活字に触れさせ、自分の考えを文字に起こす活動を行いたい。	
2学年	Ⅰ，Ⅲ	自主性・積極性・責任性を身に付け、各々が考えて自ら行動できる学年にする。	学年目標を達成するためのルールを設定させ、定期的にLHRで話し合いを行う。	昨年度よりクラス目標に関しては生徒と話を良くしています。クラスの中で注意し合ったり、自分から積極的に行動するような姿も見られます。	クラス目標の達成に向けてさらにお互いに声を掛け合う。	面談を随時行い、生徒の卒業後の進路が明確になってきた。	A	3年生に向けて卒業後の準備を具体的に進めていく。	
	Ⅱ	基礎学力、基礎的な学習習慣を身に付ける。	週末課題としてスタディサプリの連動課題機能を使用し個別に基礎学力を身に付けさせる。	週末課題はしっかりと取り組み、全員が提出することができている。課題連動配信という自分の苦手を補う課題は夏休みに取り組み、基礎学力をつける。日々の課題への取り組みが不足している。	日々の課題を大切にするために、期限内に課題を提出させられるようなメモや、課題提出前日に周知徹底できる仕組みが必要である。	期日内に提出物を出せる生徒の割合が増えた。	B	期日内に提出物を提出しているが、次はその提出物の質をもっと高めていくことが必要である。	
	Ⅳ	卒業後の進路について明確に目標を持たせる。	一人ひとりが、将来どのように社会と関わっていくのかを考えさせ、どの職業、進路を選択すればその目標を達成できるかを探求させる。	探求の授業で職業について学び、講演会ではどのように職業選択をすべきかを学んだ。2学期からは各々のゴールを見据え、現在の位置からどう進むかを探求する予定である。	進むべき道に対して、自分自身が何をしなければいけないのかの計画を立てさせる。	卒業後の進路が明確になりつつあり、各々がその進路に必要なインターンシップやオープンキャンパスなどに参加することができた。	B	より一層明確な自分自身の進路に向けて、動いていく。	
3学年	Ⅰ、Ⅲ	誰もが安心、安全で快適な生活ができる環境づくりを行う。	道徳教育や人権教育を実践して、他者を慮る精神を醸成する。	進級に伴って達成具合が上がっている。	ロングホームルームなどを活用して道徳観や人権意識が高まるような活動を盛り込む。	夏のLGBTQ講演会をもとにした人権学習を行い、知識の定着をはかった。	B	道徳教育や人権教育は日進月歩なので、常に最新情報を提供できるように教職員の知識をアップデートしていく。	
	Ⅱ	学力向上に向けて学習意欲を喚起する。	教科担当と情報交換、情報共有を行い、成績不振科目保有者ゼロを目指す。	一部の生徒が成績不振科目を有する。これを補う補習を通じて当該生徒の学力向上を目指す。	平素より教科担当と情報交換を行い、特に定期考査前は該当生徒の実力が向上するような取り組みを行う。	複数の科目で欠点を保有する生徒がいる。	B	提出物の〆切厳守や補習参加の促進などを行う。	
	Ⅳ	全員が希望の進路先に到達できる。	進路指導部と連携しながら、計画的に進路実現に向けた行動をとらせる。	進学希望者、就職希望者、それぞれが希望の進路に到達できるように活動している。	間際に慌てなくても済むように、第3学年に進級するまでに、おおよその方向を定めていく。	一部の生徒が進路先未決定である。	C	早期の段階から、生徒本人および家庭とスクラムを組んで進路実現に意識を向けていく。	